

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)	良くなる やや良くなる	一般小売店〔酒〕（経営者）	・8月は前年からの伸び率が今年に入って最も良かった。最近、前年からの伸び率が拡大傾向で推移しているため、これから2～3か月先についてはさらに良くなる。
		スーパー（店長）	・お盆期間の売上が前年比107%となるなど、前年からの回復傾向がみられる。部門別にみても、衣料品が前年比109%、食品が前年比105%、住まい用品が前年比109%となっており、食品以外の部門にも回復傾向が徐々に表れてきていることから、今後についてはやや良くなる。
		スーパー（役員）	・プレミアム付商品券の有効期間がまだ残っているため、年末までは効果が持続する。ただ、その効果は少しずつ弱くなる。
		コンビニ（店長）	・売手の型破りな発想や行動力によっても景気は良くなるため、今後についても、陳列の工夫などで売上が増えることを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・9月の大型連休を中心に秋の旅行の受注が増えている。また、海外旅行についても復調の兆しが感じられる。
		タクシー運転手	・夏休みも終わり、観光客が減少するため、売上は下がることになるが、利用客の様子から今年の減少幅は小さいとみられるため、やや良くなる。
		タクシー運転手	・こここのところ天候に恵まれていることで、農作物の生育状況が平年並みとなっており、農業が基幹産業の地域であるため、今後の消費は伸びることになる。しかしながら、タクシー業界としては従業員不足に陥っている状況にあるため、苦戦を強いられることを懸念している。
		タクシー運転手	・5月から実施している営業方法が実績を上げ始めてきていることから、今後についてはやや良くなる。
		通信会社（企画担当）	・移动通信業界では、毎年、秋の新商品発売により北海道全体が盛り上がることになるが、今年も同様の盛り上がり期待できる。
		観光名所（従業員）	・新たな国際定期便の就航が決まっていることなどから、外国人観光客の入込増のプラス要因が継続する。そのほかの大きなプラス要因は見当たらないものの、逆にこれまでの全体の勢いが減速するような要因も見当たらないことから、良くなる傾向が続く。
変わらない		商店街（代表者）	・観光客はアジア系の外国人を中心に増えているが、飲食店を飲み歩く傾向はあまりみられず、店舗による多少のばらつきはあるものの、全体的に大きな変化はないまま推移する。
		商店街（代表者）	・テレビなどでは中国の株式市場の崩壊が取りざたされているが、一般市民の生活にはそれほど変化がないため、今後も変わらない。
		商店街（代表者）	・各種プレミアム付商品券などの効果がある程度見込まれるため、全体的には前年と横ばいで変わらないまま推移する。
		商店街（代表者）	・当市においてもプレミアム付商品券の販売が始まったため、今のところ大きな消費行動はみえていないものの、今後の消費拡大を期待している。一方、外国人観光客については、今のところ大きな変化はみられないが、中国経済の衰退により、今後、消費が縮小することを危惧している。
		百貨店（売場主任）	・長期予報によると、ほぼ平年並みの気温で推移するとみられることから、ジャケット、コートなどの秋物に期待している。特に秋物は前年が厳しかっただけに、今年は期待をかけている。また、プレミアム付商品券の使用期限が9月30日となっているため、最後の駆け込みにも期待している。
		百貨店（売場主任）	・定価品の売上が前年比101%となるなど、客の購買意欲の上昇が感じられるが、顧客以外のフリー客の動きが上向くような雰囲気はまだ感じられない。
		百貨店（担当者）	・景気が改善するような要因も、悪化するような要因も見当たらないため、今後も変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・これまで外国人観光客、特に中華圏からの富裕層に支えられてきた売上増が、中国市場の株価の急激な下落などの影響で、このまま継続するか不透明である。
		百貨店（販売促進担当）	・例年どおりの気温推移の長期予報から、景気が上向くことを見込んでいるものの、大きなばん回までは期待できない。
		スーパー（店長）	・物価高に給料が追い付かない不安はあるものの、ガソリン価格低下などの効果もあり、11月くらいまでは不景気感を持ちながらも足踏み状態が続く。

スーパー（店長）	・シニア層においては高単価商材の動きが良いが、それ以外の層は買い方がシビアであるため、全体としては変わらない。
スーパー（企画担当）	・プレミアム付商品券による売上増は次第にその効果が小さくなる。持続的な消費の持ち上げ効果が低いとみられるため、今後も変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・催事期間における一時的な消費増加はみられるものの、平日の来客数は依然として減少している。消費税増税前と比べると、来客数は5%前後落ち込んでおり、厳しい状態が継続していることから、今後も変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・観光客による需要は今後も期待できるが、公共工事の現場労働者による需要の動向が不明である。ただ、天候要因さえマイナスに働かなければ、前年並みの売上にはなる。
コンビニ（エリア担当）	・現状の報道からは、良くなる見込みも、悪くなる見込みも見当たらないため、今後も変わらないまま推移する。
衣料品専門店（店長）	・これとって明るい話題もなく、株価も低迷しているため、今後、景気が上向くことはない。
衣料品専門店（店員）	・日々の来客数が少ないため、今後も変わらないまま推移する。
家電量販店（店員）	・暖房機などの季節商材が出そろうまで、客も下見が中心になる。
乗用車販売店（経営者）	・軽自動車を除けば、新型車を中心に新車販売が堅調に推移しているため、今後も変わらないまま推移する。
乗用車販売店（従業員）	・明るい兆しがないため、今後も変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・北海道では冬になると景気も冷え込むため、今後については厳しいまま変わらない。
乗用車販売店（役員）	・好転する材料が見当たらない。地域経済も含めて期待できるような要因がないため、しばらくは現状維持の状況が続く。
自動車備品販売店（店長）	・冬タイヤの販売時期の前倒しが年々早まっており、今年は8月から販売を始めたが、年間での売上は前年や前々年と変わらないとみられるため、今後も変わらないまま推移する。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・健康に関する情報が過多の割に、とりあえず今が元気であれば良いという考えでの節約志向がみられる。病院での受診も含めて、厳しい秋となることが見込まれる。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格が上昇するような要因もなく、ガソリン価格が安定して推移することから、今後については変わらない。
その他専門店〔造花〕（店長）	・購買意欲が向上するような景気対策が特にないため、今後も変わらない。
高級レストラン（経営者）	・今は観光シーズンということもあり、来客数が増えており、景気も上向きとなっているが、今後もこうした状況は続かない。中国の景気も不透明になってきているため、今後については景気がやや不安定な状態で推移する。
高級レストラン（スタッフ）	・最近では、オール電化住宅において、ガス器具やガス発電に切り替えたりするケースが増えているようである。工事できる余裕があれば良いが、そうでない人々は高額な電気料金で家計費を圧迫されているため、飲食店を利用する余裕が出てこないことになる。
観光型ホテル（スタッフ）	・近隣アジア各国からの団体予約が堅調である。報奨旅行の受注も数件みられる。
旅行代理店（従業員）	・来客数や店舗での忙しさが変わっていないため、今後についても変わらない。
旅行代理店（従業員）	・景気が悪くなるような感じはないが、ここからさらに良くなるという感じもない。今後については、今の調子を維持することになる。
タクシー運転手	・乗務員不足については、新規の応募もなかなかみられず、深刻な問題になってきている。タクシー1台当たりの売上は前年から減少しないものとみられるが、会社の売上は前年を下回ることになる。
タクシー運転手	・今後の予約状況は前年よりも少なめである。秋の観光シーズンに向けての観光客の増加に期待したいが、他社との情報交換の場においても、具体的に大きく増加するような要因は見当たらない。
観光名所（職員）	・世の中の動きをみると、物価上昇ばかりが目立ち、賃金の上昇などが伴っていない。特に中小企業の従業員を取り巻く環境は決して上向いているわけではないことから、今後も変わらないまま推移する。

		住宅販売会社（経営者）	・株価がもみ合っていることもあり、今後も消費について様子見の状況が続く。株価が一気に上昇するなどしない限り、消費は回復しない。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・中国のバブル崩壊に伴い、国内の株式市場や円相場への影響が生じることになれば、心理的な面からも、個人消費に影響が出ることが懸念される。
		商店街（代表者）	・最近の傾向として、冬物衣料などを購入する時期が遅れてきていることもあり、今後については、客の外出控え、買い控えの時期となり、地元客による来街の増加が見込めない。また、現在、燃料価格が下降しているが、今後についてはどうなるか分からないと不安を抱えることで、客の買い控えが強まることも懸念される。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・これから秋の観光シーズンが始まり、9月の大型連休も控えているが、バンコクのテロや中国経済の減速感などの影響による株価の下落、円相場の大幅な振れなどが、観光客の消費マインドを冷え込ませる要因の1つにならないか気がかりである。今後、2～3か月間は観光客の財布のひもが固くなることを懸念している。
		スーパー（企画担当）	・中国景気の悪化という雰囲気が強まることで、株価が下落することを懸念している。
		観光型ホテル（役員）	・株と為替の変動が激しく、このまま円高傾向が強まれば、外国人観光客数の減少はまぬがれないため、今後についてはやや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・航空路線の供給座席量が夏季よりも減少するため、外国人観光客も漸減することになる。一方、道東発の旅行需要は修学旅行や農業団体などにより活発に動く時期であるが、例年、10～11月は航空機の搭乗率が高く、伸びしろのない時期であるため、全体的にはやや悪くなる。
		美容室（経営者）	・年金生活者においては所得が目減りしたという雰囲気があり、この層の支出引締め感が強まっている。また、将来に対する不安感も高まっているため、今後についてはやや悪くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・観光シーズンが終了し、例年どおり閑散期を迎えることになる。
		住宅販売会社（役員）	・株価が下がるなか、それにあわせて客の購買意欲も低下している。金利が低いことは有り難いが、今現在、それ以外の経済要因は所得の伸び悩みを始めとして悪いことの方が多いため、これから先の分譲マンション市場はやや停滞気味になる。
悪くなる		コンビニ（エリア担当）	・長期的にはロシア200海里内のさけ・ます漁禁止を控えて、沿岸部での買い控えに加えて、人の流出も見込まれるため、厳しい状況になる。また、競合店の出店が意欲的なことから、各店舗の商圏の縮小もまぬがれない。
企業動向関連 (北海道)	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（営業担当）	・道内の秋まき小麦の今夏の収穫は、2011年に導入された主力品種が天候とマッチしたことで大豊作の模様であり、本所の製粉会社向けの船輸送が期待できる。そのほかのたまねぎ、ばれいしょ、てん菜などの農作物も順調に生育しており、トレーラーや鉄道コンテナでの輸送も期待できる。
		輸送業（支店長）	・今季、道外では九州の長雨などの天候不順の影響により、農産物の作柄が良くないことから、道内からのじゃがいもなどの移送が増えることになる。実際に引き合いも増えている。また、積雪前の土木工事なども動く見込みであり、現在の景気の悪さは8月が底となる。
変わらない		食料品製造業（従業員）	・現在のところ、例年どおり繁忙期に向けて好調な商材もあるが、全体としては、2～3か月先に受注が上下するような見通しはない。
		家具製造業（経営者）	・株価に不穏な動きがあるため、近々、景気の調整局面が訪れることを危惧している。
		司法書士	・高齢化社会の進展に伴い新規住宅の購入や建築が伸びてこない。地方都市は、土地取引、建物建築が低水準で安定している状態である。
		コピーサービス業（従業員）	・設備投資の動きはあるが、取引先の慎重な姿勢は変わっておらず、決して無理をしていない様子であることから、今後も変わらない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・民需の弱い地方都市では景気が上向くような要因が見当たらない。
やや悪くなる		出版・印刷・同関連産業（従業員）	・良くなるような状況が見えないため、今後も変わらない。

	建設業（経営者）	・前年に比べて、公共、民間をあわせた建設投資全体が減っている。特に公共土木の落ち込みが大きく、秋枯れになりそうである。工事の稼働は最盛期を迎えているが、繁忙感に乏しい。
	建設業（従業員）	・設計業界の仕事量は微増しているようだが、年内の発注に間に合う案件は少なく、翌年、もしくは翌々年になるものばかりと聞いている。
	建設業（従業員）	・民間建築工事は取引先の設備投資意欲が継続して高く、引き合いも多いことから、選別受注している状況であるが、公共工事は案件が減少していることで、競争が激しくなっており、受注環境の厳しさが増している。
	通信業（営業担当）	・現時点の株式市場の世界的な乱高下を受けて、この先の景況感に楽観的な見方をしていた企業の判断が厳しくなり、より慎重になるとみられる。また、中国の経済成長の減速が明らかになったことで、中国からの観光客が増加していた北海道としては、観光客の減少が見込まれ、景気の下振れが懸念される。
	金融業（企画担当）	・中国経済の減速により、中国人観光客の減少や爆買いが鈍化することになる。また、株価の大幅下落により、経営マインドや消費マインドが冷え込むことが懸念される。
	司法書士	・中国経済の減速による影響を見極められるまで、心理的に弱含みとなり、消費行動に多少のブレーキがかかることが懸念される。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新規の受注案件の確定するタイミングが遅く、発注者側が様子見をしている状況がうかがえる。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・中国経済やギリシャ経済の問題が日本経済にも影響してることが懸念されるため、今後についてはやや悪くなる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・設備案件が一段落したことで、今後については一般消耗品の販売が中心になるが、前年並みの販売量しか見込まれないなど、明るい材料がない。
	悪くなる	-
	良くなる	-
	やや良くなる	-
	変わらない	-
雇用 関連 (北海道)	人材派遣会社（社員）	・企業活動が現状を維持することが見込まれるため、求人不足も当面続くことになる。ただし、採用にかかるコストや人件費が上がることで企業業績に悪影響が出ないかが気がかりである。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・将来の人口の年代構成上、企業の人手不足感は今後も続くが、先行き不安が払しょくされていないため、派遣やパートなどの非正規雇用でつないでいくことになる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・採用したくても人材がいらないため、今後もこう着状態が続くことになる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・1月からの求人広告の掲載件数の推移をみると、前年とほぼ同じような状況で推移しているため、今後についても変わらない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今年に入って募集広告の売上が前年を10%程度下回る月が続いていることから、今後もこの傾向は大きく変わらない。
	職業安定所（職員）	・公共事業が減少していることで、建設業からの求人が減っているため、今後も変わらない。
	職業安定所（職員）	・月間有効求人数が前年を上回って推移しているが、卸小売業、宿泊・民宿サービス業、医療福祉などの一部の産業が全体を押し上げており、求職者の減少傾向と相まって求人倍率が高く推移している状況であり、今後もこうした傾向が続く。
	職業安定所（職員）	・求職者数は引き続き減少しているが、新規求人数が2か月連続で前年を下回っていることから、今後も変わらないまま推移する。
	職業安定所（職員）	・有効求人数が前年から減少したが、有効求職者数も減少したことで、有効求人倍率は1.04倍と前年0.06ポイント上回った。ただ、有効求人数がこれまでの増加傾向から減少傾向に転じるかは不透明である。
	学校〔大学〕（就職担当）	・企業側の採用意欲は相変わらず高い。これまで主に契約社員での採用を行っていた企業が、正社員雇用での募集に切り替えるなど、とても良い状況にある。また、大学や短大において、新卒見込みを十分に採用できていない状況は12月までは続くともみられ、前年に新卒を定員まで採用できなかった企業が多かったことから、今年は定員充足に一層の拍車がかかることになる。

やや悪くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・中国経済がマイナスに転じる可能性があるため、これまで北海道の景気を押し上げてきた外国人観光客の減少が見込まれる。これにより、これまで求人が多かった宿泊業、小売業などでの求人の減少が懸念される。
悪くなる	-	-